

時評

ユーラシア・グループの「2026年世界10大リスク」の10番目に、水の武器化(The water weapon)が挙がっていた。今、世界は「石油(Oil)」に揺れているが、「水(Water)」が世界を揺るがす日も近いように思う。WMO(世界気象機関)の発表では、2050年には世界の50億人が水不足に陥ると指摘されており、今この時にも、飲み水に困窮している地域や人々がいる。

木質資源と水資源

だが、バーチャルウォーター(仮想水)の観点では、この認識が覆る。日本は生活・工業用水はほぼ自給できているが、食料輸入に伴う仮想水を含めると、実質的な水の自給率は過半に満たないのだという。私たちが木材業界にとって、水問題は他人事ではない。国産材の活用が叫ばれ、日本の

山(森林)について考える機会がかわりも深まっているが、言うまでもなく、森林は水源涵養機能を持つ。木質資源と水資源とは密接にかかわっていると言えるだろう。近年は、環境価値の観点から社有林を持つ企業が増えてきた。だが、例えば、こうした日本の企業が外国資本に買

取された時、森林が持つ多面的機能がもたらす必要があるのではないだろうか。水が武器化するのであれば、日本の山を守ることは、日本の防衛にもつながるようにも思う。さらに、森林の多面的機能の事業化を考えると、山を起点に木材業界の事業のすそ野が広がることを期待したい。(べし)

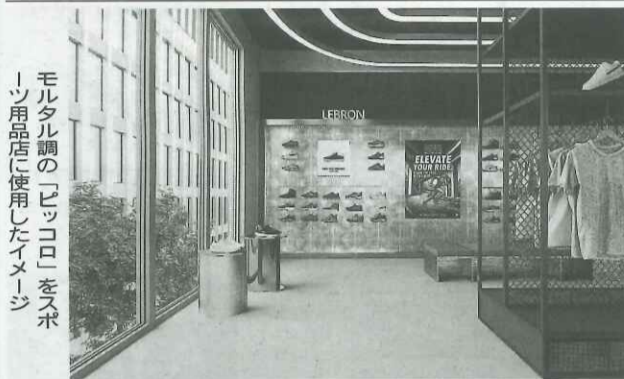
同調エンボス・つや消し需要に対応

接着剤不要の施工にも引き合い

ラメットジャパン

ラメットジャパン(東京都、鈴木香奈絵セールス&マーケティングマネージャー)は、SPCフローリング製品にモルタル柄の「ピッコロ」を追加し、販売を開始した。併せて、木目調の「オーボエ」は従来のLXシリーズからOBシリーズに刷新し、同調エンボス・マット加工により木の質感に近づけたほか、耐摩耗層を厚くし通行量の多い場所等への対応を強化した。

SPCフローリングは石灰石を主原料とする基材からなる。同社は国内販売代理店を務めるラメット(ベルギー西フランドル州)のSPCフローリングは、SPC層、耐摩耗コートなど基本5層で構成。高い耐久性や防水性などを備える。



モルタル調の「ピッコロ」をスポーツ用品店に使用したイメージ

向させた。また、木目調エンボス・マット仕様に沿って表面に強弱様の新製品「シンフォ」をつけた同調エンボス「オーボエ」(5mm厚、1.9とマット加工(つや消し)を施し、木に近い質感へと仕上げた。いずれも、人気が高

が、木材産出が第一義となつていられるだけに、商業林などの経済的価値がある限定的なものにとどまっているのが現状だろう。だが、私たち木材業界に課せられた役割はもはや、木材利用による「脱炭素社会の実現」への貢献にとどまらないのではないかと、山と切っても切れない関係にある木材業界だからこそ、これからは、森林の多面的機能を最大限に引き出し、日本の森林を守る新たな山守になる必要があるのではないだろうか。

品(5mm厚)の原料調達から施工・廃棄までのCO2排出量も、一般的な塩ビフローリングと比べ約78%の削減となる(同社調べ)など、環境負荷低減を実現する。また、接着剤や釘を必要としないサネによる簡易なはめ込み式の施工で、職人不足・省施工を求めている現場からの引き合いも多い。

同社製品を扱う双日建材(東京都)は「施工時に接着剤を使用しないラメットジャパンのSPCフローリング製品は、国際情勢を鑑みれば時流に合った商品。エコ建材でもあり、自社ブランド・TERRA ONE(テラワン)の推奨商品として販注に注力している。(安東浩二合板事業本部副本部長)と述べている。

同社では自然素材の家づくりを推進しており、石油製品への依存度が低い。セルロースファイバー断熱材やオビ、安心を提供していきたいとしている。

同社では、顧客の「家づくりへの想い」が価格の不安によって止まってしまわないように、キャンペーンを通じてコスト対策を講じ、安心を提供していきたいとしている。

値上げ「ゼロ」キャンペーン開始

6月末までの契約者に現行建築価格で対応

アイジーコンサルテイング

アイジーコンサルテイング(浜松市、瀧澤幸也社長)は、昨今の建材価格の高騰や供給情勢の不安定化を受け、家づくりを検討中の顧客を対象とした期間限定の「値上げゼロ」キャンペーンを開始した。

同社は愛知県や静岡県西部で注文住宅事業やリノベーション事業を展開している。今回のキャンペーンは、6

品(5mm厚)の原料調達から施工・廃棄までのCO2排出量も、一般的な塩ビフローリングと比べ約78%の削減となる(同社調べ)など、環境負荷低減を実現する。また、接着剤や釘を必要としないサネによる簡易なはめ込み式の施工で、職人不足・省施工を求めている現場からの引き合いも多い。

同社では、顧客の「家づくりへの想い」が価格の不安によって止まってしまわないように、キャンペーンを通じてコスト対策を講じ、安心を提供していきたいとしている。

決算

26年3月期

積水化学工業

積水化学工業(大阪府、清水郁輔社長)は増収減益。売上高は過去最高を更新した。経常利益も為替差益による増益で過去最高を更新。しかし当期純利益は現損損失計上の影響で減益となった。

事業別では、住宅カンパニーが売上高、営業利益ともに前期比超え。住宅事業の売上棟

Table with 3 columns: 積水化学工業(連結) 単位:100万円、()は前期比% and 2 rows of financial data for 26年3月期 and 27年3月期予想.

木材の安定供給と需要拡大進める

中部森林管理局・26年度重点取組事項 理局は4月21日、2026年度重点取組事項を発表した。当初予算額は、前年度当初予算比0.4%減の159億円。重点取組は、「国民の安心・安全を支える取組」

運用を進める。多様な森林づくりは、生物多様性の保全に配慮した森林施業、広葉樹林による森作りの具体化、杉人工林の伐採と植え替えや少花粉杉苗木の安定調達に向けた関係団体との調整、シカ・クマ対策を実施する。

カンパニーは売上高が前期並み、営業利益は増益。営業利益は過去最高。住インフラ複合材分野では耐火・不燃材用の新規採用や新製品拡販が順調だった。

数是新築市況低迷で減少したが、棟単価上昇とリフォーム事業の好調で、住宅カンパニーとしては増収、大幅増益となった。